

環境について
みなさんもう一度真剣に考えてみませんか？

Save The Kikuchi River



大

気中の二酸化炭素が増え続けると、二酸化炭素の温室効果によって地球が温暖化していくと、一般に言われるようになりました。地球表面の温度が上がると海水面の水位が上昇する。海水面の水位が上昇する主な原因は、陸上の氷の融解と海水の膨張であるということです。地球の表面が1℃上昇すると氷河の溶けた水が海に注ぎ3・75センチ海面が上昇する。海水の膨張によって42センチ上昇すると非常に乱暴な計算によって算出したことがあります。しかしこれは算出のひとつの考え方の例を示したのであって、まだまだ沢山の要因が複合的に作用しているのです、簡単な計算で推定する事はできません。

そこで過去のデータを参考にして二酸化炭素の推移と海面の上昇の具合を見てみようと思います。IPCC(注)の最新版第4次報告書によると、過去100年間(1906～2005)で地球の気温は0.74℃上がっているとされています。その原因の半分(53%)は二酸化炭素

ではないかということですが。それとメタンやハロカーボン類(31%)オゾン(10%)、この3つで94%を占めます。太陽活動が盛んになったための温暖化が7%、人間の活動による温暖化が93%となつています。人為的な原因が93%だから、その内の53%が二酸化炭素の影響ならば93%の53%つまり49%、地球温暖化の原因の半分を人間が及ぼしているということになります。次に海面が上昇したのはどのくらいかというところ、ここ43年間(1961～2003)で7センチ、1年間で平均約1.6ミリとなります。1.6ミリのうち海水の膨張が0.42ミリ、氷床(大陸氷河)、氷帽(熱帯地方の高山の頂上付近を覆っている水)、谷氷河などの溶けたのが海に注いだ分が0.5ミリ、その他です。グリーンランドと南極の融解による影響は0.19ミリとされています。グリーンランドと南極の水が融解して海面を上昇させるといのはIPCC報告では影響が少ないということになっています。

キメデスの原理にしたがって海面上に現れている部分は氷となつて密度が小さくなり体積が増えた分だから元の体積に戻るだけで海面の上昇下降には関係ありません。地球の温暖化には色んな要因がからんできます。温室効果ガスは勿論太陽の活動状況もあります。海水の二酸化炭素溶解能力は温度の変化によって変化し、ほかに我々の気付かない影響が沢山あると思います。

(注) IPCCとは「地球温暖化に関する政府間パネル」という国際機関で、温暖化は地球規模の問題であり広範囲のデータが必要で、データも膨大な量になることから世界全体で研究しようということになりました。創設以来もう20数年になります。これまで4回の報告書を出していますが2007年が最新版です。今の所IPCCの報告書のデータが一番信頼性が高いとされています。

日平城跡 18

大田 幸博

(元・菊水町史編纂委員会副委員長)

日平城跡の縄張りですが、ヒトデの形をしているのは、先月号で説明をしました。今回は、その中の一つで、現在、調査中の派生尾根⑦を取り上げます。

⑦は、西方向へ延びる主軸尾根から南方向へ張り出す派生尾根の一つです(内、一つは④)。「痩せ馬地形」で、標高305mの分岐箇所から緩やかに尾根が下ります。真ん中に行政境が走っており、東側が和水町、西側が玉名市となります。はっきりとした縄張りとしての造成箇所は、三カ所に残っています。

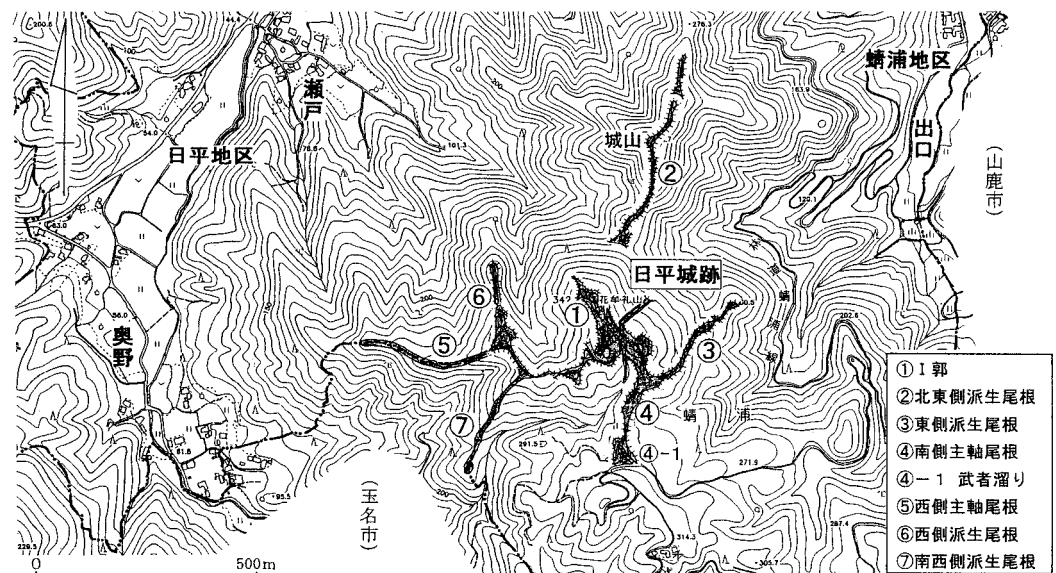
第一点は、分岐箇所から測量図面の直線距離にして130m近く下った平場です。帯状の地形で、長さ30m、幅5m位です。平場は二分されて、上面は下位側が数十cm高いという特色があります。類例は、合志市の竹迫城跡にもあり、本丸に段差がついています。いずれも理由はわかりません。



小山・上面の平場



小山直下の堀切



日平城跡と麓集落